岡山消費者動向分析

意識調査から読み解くビジネスのヒント

Vol.62
「リベンジ消費」の可能性

COVID-19と「リベンジ」について

COVID-19が世界で広がってから約2年になる。その間世界中の感染者数は2.6億人、死者数は約520万人に上る。世界的経済誌であるイギリスのエコノミスト誌はこの3倍の1500万人が亡くなったと推測している。過去のパンデミックの中でも悲惨なパンデミックであったことは間違いない。

国内の感染者数は170万人、死者数は1.8万人を超える。第五波は大きなうねりとなり一時制御不能かとも思われたが、ワクチンの接種（77%）のお陰なのか、あるいはデルタ株自体が強くなり過ぎて自滅したのか分からないが、急速に減少した。大都市での行動制限も解除され通常の生活に戻りつつある。このような中、南アフリカでは新たな変異ウイルスであるオミクロン株が発生し、年末にかけて世界に広がるのではないかと危惧されている。

1999年の流行語大賞となった「リベンジ」は今季限りでの引退を表明した埼玉西武ライオンズの松坂大輔投手が広めた言葉でもある。コロナ禍で委縮していた消費が再復活するのか、ワクチン接種後の消費意向を、コロナ禍収束後の「リベンジ消費」について岡山と全国を比較した。

ワクチン接種後に最もやりたいこと

リベンジ消費を予測する設問として、ワクチン接種後に最もやりたいことについて聞いた。「国内旅行」がもっとも多く、岡山36.9%、全国28.5%、岡山の方が全国に比べて、8.4ポイント高い結果となった。岡山での2位は「家族・親戚と会う」15.3%であるが、全国での2位は「みんなで集まって会食をする」16.3%であった。しかしながら「外食」は岡山8.8%、全国6.1%で、外食はしたいが、みんなで集まっての会食については岡山の生活者は慎重である。

「リベンジ消費」の可能性

新型コロナウイルス感染症の「影響が出る前よりもお金を使うようになった」のは、岡山6.5%、全国10.9%で全国の方が岡山に比べて4.4ポイント上回った。「影響が出る前と変わらない」は、岡山53.5%、全国46.9%で、6.6ポイント岡山が上回り、岡山は全国に比べるとリベンジ消費の意向は弱い。

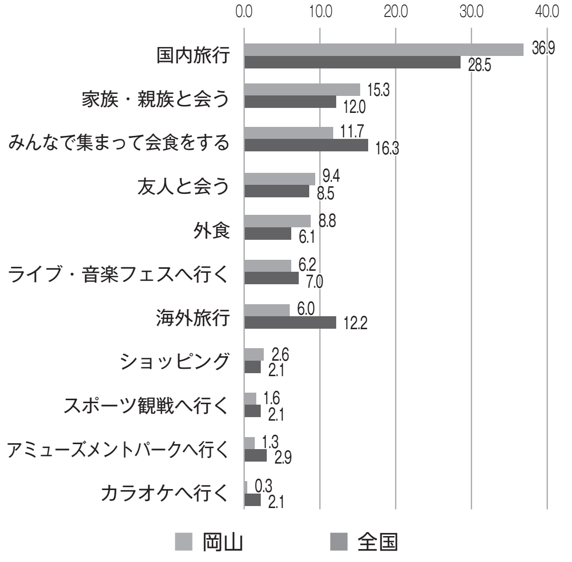
「新型コロナウイルスの影響が出る前の消費傾向に戻るか」という問いに対して、「影響が出る前よりも出費傾向が高まると思う」は、岡山は20.9%、全国は23.2で、岡山のほうが2.3ポイント下回った。「影響が出る前よりも消費傾向が下がると思う」は、岡山は25.4%、全国は25.8%でほぼ同程度であった。岡山での消費の回復には時間がかかりそうである。

日本の景気回復について、「良くなると思う」と「少し良くなると思う」を合計すると、岡山27.0%、全国29.5%で、全国のほうがわずかに上回った。「悪くなると思う」と「少し悪くなると思う」を合計すると、岡山41.7%、全国45.7%で、全国のほうがわずかに上回った。「変わらないと思う」と回答しているのは、岡山31.3%、全国25.1%で、岡山の方が全国に比べて6.2ポイント高く、岡山は景気全般について厳しい見方をしている。

ワクチン接種後の気持ちとしては、「油断はできない」がもっとも多く、岡山66.5%、全国63.5%。「まだ心配である」は岡山38.0%、全国30.3%で、岡山の方が全国に比べて警戒感は強い。「ホッとしている」も岡山28.0%、全国39.9%。調査時期、ワクチン接種状況の違いがあるとしても、全国に比べて岡山の生活者は依然として強い警戒感を持ち続けている。

調査対象：岡山460件、全国1502件
調査方法：インターネット調査
岡山 Vinsight
全国 Tアンケート
調査期間：岡山 2021.11.15～11.21、
全国 2021.7.21～7.27
調査機関：岡山情報文化研究所
ＣＣＣマーケティング㈱

ワクチン接取後に最もやりたいこと



※岡山の生活者をモニターとした岡山情報文化研究所独自のインターネット調査パネル「ビンサイト」を活用（URL http://vinsight.jp/）

岡山SME研究所、㈿岡山情報文化研究所、VISION岡山共同企画